

奥 昭二（おく・しょうじ）

1、プロフィール

川柳作家。10代より川柳を始める。中央柳誌「川柳研究」「番傘」「ふあうすと」また、県柳誌「ねぶた」で活躍。県内外に名作家として高い評価を得ている。

<生没>

1913(大正2)年3月20日 ~ 1985(昭和60)年6月1日

<代表作>

句集『藪萱草』

<青森との関わり>

三戸郡三戸町生まれ。三戸町役場に勤務。

2、作家解説

大正2年三戸町上在府小路に誕生。本名正二。三戸尋常高等小学校高等科2年中退。その後上京し就職、川柳句会に出席し川柳入門。昭和13年(25歳)留崎村役場に公務員として勤務、後に町村合併で三戸町役場に勤務。昭和46年退職。

昭和5年、地元三戸町にある三戸川柳吟社に参加。当時県で唯一の柳誌であった「みちのく」誌に投句、研鑽を積む。戦後、中央有力誌である「川柳研究」「番傘」「ふあうすと」に投句、その作品は高い評価を得る。また県内では主に青森県川柳社機関誌「ねぶた」で活躍、同社の作家賞である県川柳年度賞の第1回(昭和41年)の受賞者となる。他に同社作品賞である「不浪人賞」を三度受賞する。

二代目三戸川柳吟社の代表を務めるなど、三戸町の川柳の発展に尽力。また名作家として全国にその名を知られ、県川柳界の発展に貢献した。

昭和60年6月1日死去。享年72歳。

平成4年11月、松原とおしが発起人となり県内外多数の協賛を得て、三戸町神明神宮に句碑を建立。

「子が走るはしる貧富の翳も無く」 昭二
昭和 54 年、句集『藪萱草』を発売。

3、資料紹介

○『藪萱草』

図書

1979(昭和 54)年 10 月 10 日

190mm×135mm

川柳句集。著者の唯一の句集で、それまでの全作品より 680 句を選びすぐった。また能筆家としても名が高く、全句を自筆で書いている。序を親交のあった西沢赤子、長谷川霜烏等が記す。編集松尾夢城、発行人船場けん吾。